

学年だより

# かがやき

岩国市立岩国中学校  
2 学年通信 No. 9  
2020年1月27日(月)

## 3学期もよろしくお願いたします

2020年になりました。中学2年生も残すところ2ヶ月あまりです。生徒たちはいよいよ岩国中学校の「顔」となる生徒会活動を3年生から引き継ぎました。「自分たちの課題は何だろう、どうしたらよりよい学校になるのだろうか」と一生懸命に考えて、行動しようとしてくれています。

『自らを振り返り、目標を定め、行動し、さらにそれを振り返り、次につなげていくこと』は、夢の実現や社会に出て活躍する上で、非常に大切な力になります。どんな時でも、将来のためになっているのかどうか、正しい判断をして過ごしてほしいと思います。

## 道徳「立志」について

1月22日(水)の1校時に学年道徳で、『啓発録』を書いた橋本左内の人生と、立志式について学び、立志の誓いを考えました。

橋本左内は、幕末維

新の功労者である西郷隆盛から「同輩としては橋本左内を推す」と、同世代ではもっとも優れた男だと認められた越前福井藩出身の思想家で幕末の志士です。左内は、みなさんと同じ15歳にして自己啓発本『啓発録』を書き残し、「学問は生涯を通じて心掛けねばならない」と、学ぶことの大切さを語っており、福井藩主・松平春嶽の右腕としてわずか25年の人生を駆け抜けました。左内に影響された人物は数多く、明治維新、その後の日本を形づくる上で非常に活躍しています。



左内の残した『啓発録』を参考に、みなさんも将来の生き方についても一度考えてみてください。そして、2月4日(火)に行われる立志式に新たな決意をもって臨んでもらえたらと思います。

### 1「稚心(ちしん)を去る」

稚心とは、子供じみた心のことを指し、自分の好きな遊びにばかり熱中し、楽なことばかりを追いかけ、勉強や稽古事をおろそかにし、いつまでも父や母に甘えていることを表しており、そうした「稚心」を抱いてはならない。

### 2「気を振るう」

本気で物事を始めたら、決して人に負けまいと思う心。努力をしないで負けるということは恥だと考えて、常に油断なく頑張る気持ちを持たなければならない。

### 3「志を立てる」

せっかく頑張ってもやろうと決心しても、行き先が決まっていなければ意味はない。高い目標を掲げ、いつもそれを眺めて自己を省みて、自分の足らぬところを努力することが大切である。

### 4「学に勉む」

勉学とは、優れた人物の立派な行いを習い、自らもそれを実行し続ける。こうして真に自分の知識を豊かにし、心を練り鍛え、自己の力を出し尽くして目的を達成するまで続けるということである。

### 5「交友を択(えら)ぶ」

交友とは、自分が交際する友人のことであり、友人には益友(えきゆう)と損友(そんゆう)とがある。損友はすぐに心安くなりやすいけれど、自分の為にはならないものだ。逆に、益友にはなかなか気づきにくい。時には、自分の欠点を率直に指摘し、言われた本人にとってもれば面白くないこともあったりする。益友とはそういう友人だ。本当によい友達と交わってこそ、相手のよい所を見習い、自分の欠点をなおすことも出来る。損友(そんゆう)がいたら、自分の力でその人の良くない面を正しい方向へ導いてやらねばならない。

